

(臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] AN69ST 使用時の抗凝固剤吸着による ACT の比較検討

[当院研究責任者] 部署名 臨床工学部 氏名 小山昌利

[研究の概要]

●背景：

急性血液浄化で使用される AN69ST 膜 (sepXiris™) は 2014 年 7 月に保険収載され重症敗血症に保険適応をもつ国内唯一のヘモフィルターである。AN69ST の膜構造は AN69 のアクリロニトリルに、メタリルスルホン酸ナトリウムを付加して、親水性を付与した共重合体の膜表面にポリエチレンイミンで処理を行い、中性荷電膜として生体適合性と抗血栓性を高めた持続的緩徐式血液浄化療法の膜である。しかし、抗凝固薬であるメシル酸ナファモスタット (NM) が吸着されると *in vitro* による報告はあるが *in vivo* による他の膜との比較した研究報告はない。

●目的：AN69ST 膜 (sepXiris™) は AN69 膜の強い陰性荷電にバルク層を有するハイドロゲル膜で、サイトカインとの吸着機序は膜の陰性荷電 (スルホネート基) とサイトカインのアミノ基 (陽性荷電) とのイオン結合を有することが特徴であるが、抗凝固薬において吸着を示すことが *in vitro* で示されたことで、膜の Life-Time (寿命) への影響が懸念される。In vivo によって膜への吸着状況を膜の前後 ACT 測定値より吸着を明らかにすることを目的とする。またで抗凝固薬の滴下の方針、透析膜の詰まりへの検討材料の一助となることを期待する。

[研究の方法]

●研究の対象：

2014 年 7 月から 2021 年 7 月に当院集中治療室に入室し、AKI 患者に対して CHDF を施行した患者に AN69ST 膜 (sepXiris™) を使用した患者を対象とする。

●研究期間：(医の倫理委員会承認日) から 2025 年 3 月まで

●利用するカルテ情報：診療録より診断名、CHDF 導入目的、年齢、性別、身体所見、重症度、ACT 計測値、透析膜、膜の Life-Time、CHDF 設定値、凝固薬、生化学検査値、凝固機能検査値、集中治療室経過情報、重症度スコア (APACHE2)、SOFA スコアを調査した。

●検体や情報の管理：情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

収集する情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

[問い合わせ先]

公立陶生病院

所属部署 臨床工学部 氏名 小山昌利

電話 0561-82-5101 FAX0561-82-9139